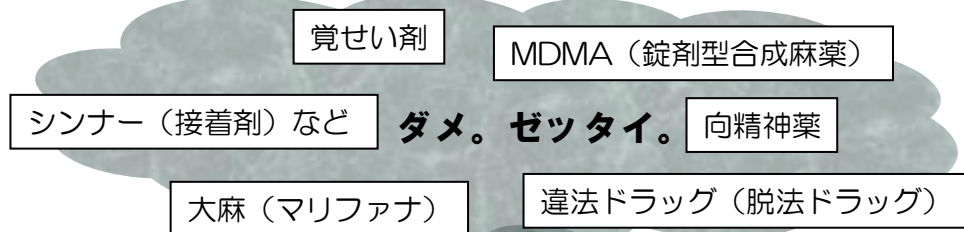




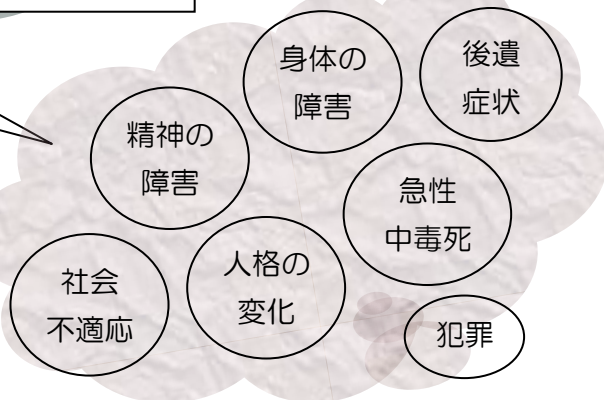
薬物の怖さ～手を染めない強さ(自尊心)を心の中に育てましょう～



社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用といいます。

覚せい剤などの違法薬物は、1回の使用でも犯罪となり、薬物乱用の悪影響は、脳や内臓に広く現れます。依存症を引き起こし、手に入れるために犯罪を犯したり、家庭の崩壊、社会秩序の破壊などの要因になっています。

国際的に日本は覚せい剤の経験率は低く、覚せい剤・シンナー事犯の検挙人員も、未成年者の割合も減少しています。学校における薬物乱用防止教育や広報・啓発活動の効果の表れとされています。しかし、インターネットや携帯、スマホの浸透などにより入手しやすくなっていることから予断はできないとされ、低年齢化も危惧されています。



青少年期に心配されること

- ・成長途中なので、薬物の影響を受けやすく、依存症になりやすい。
- ・ファッション感覚で手を出しやすい薬物(違法ドラッグ)の台頭。
- ・インターネットや携帯サイトなどによる入手方法の容易化。
- ・アルコールやタバコの使用が、薬物乱用への入り口に繋がる懸念。

薬物を使ってみたい人の認識傾向



一回くらいならかまわない

個人の自由だ

〈違法ドラッグの例〉



〔ビデオクリーナー〕として



〔合法ハーブ〕として



〔パスポート〕として

「合法ハーブ」「合法ドラッグ」などと称して販売されている違法ドラッグがあります。覚せい剤・大麻に化学構造を似せて作られた物質などが添加されたもので、麻薬や覚せい剤と同じように危険です。合法でも安全でもないのでだまされてはいけません。

薬物乱用は絶対ダメ！という姿勢を学校でも家庭でも持ち、また、薬物を自ら拒む力を育てていくことが大切です。薬物の使用では、万能感や多幸感がもたらされるといいます。普段からつらい状況にいと、魔の誘惑に負けやすくなるでしょう。日頃から、否定ではなく、認める言葉をかけ、自分自身を大切にしたい気持ちを育む関係づくりを、学校・家庭・地域で心がけていきましょう。(参考：文部科学省・内閣府ホームページ、厚生労働省読本)

薬物を使ってみたいと思わない人



自尊心が高い



## こども110番の家の協力件数

と、駆け込み事例

2017年2月末現在、ご協力いただいている、こども110番の家の件数と、駆け込み事例です。

設置総数 5,758軒 (内訳 一般住宅 3,322軒, その他 2,436軒)  
(昨年より32軒の減少。空家や高齢独居など)

駆け込み事例 不審者駆け込み 1件, トイレの借用 複数件, 怪我の手当て 1件

ご協力ありがとうございます。今後とも、子どもたちの安全のため、よろしくお願いします。



## たばこ自動販売機調査結果

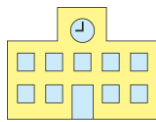
2017年2月末現在、各学区で調査していただいた、たばこ自販機の台数です。

設置総数 338台 うち、成人識別装置 有 338台 無 0台

成人識別装置の種類内訳 (タスポ 321台, 顔認証機式 14台, その他 3台)

お忙しいなかの調査ご協力、ありがとうございました。

## 指導員の窓



「先生が変われば学校が変わる。

学校が変われば子どもが変わる。

家庭や地域(大人)が変われば子どもが変わる。」



かけがえのない子どもたちのために、私たち大人は、常に学びながら変革していかなければいけないと、学校現場(教職)を去った今でも、私は強く思っています。

青少年センターの指導員として、2年目が過ぎようとしています。様々な子どもたちと関わりながら、どれだけ成長し変革することができただろうか。反省することの方が多くなるような気がしています。

私たち指導員が日々の補導活動の中で、声をかけたり、時には厳しく叱ったりすることもあります。ルールやマナーが守れていない子どもたちは決して少なくありません。

その中で、私が最も憂い危惧することは、学校生活に位置づかず、家でも安らぎ落ち着くことができない「居場所」のない一部の少年や少女たちのことです。

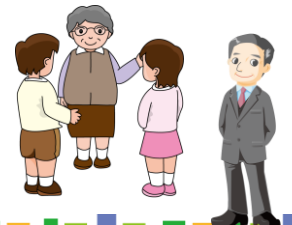


彼らの中には、髪の毛を染めていたり、ピアスや化粧をしていたり、たばこを持っていたりする子もいます。しかし、その子たちの多くはとても素直で人懐っこく、私たち指導員に「おっちゃん、おばちゃん。」と言って自ら近づいてくることがあります。その言動は、自分たちの存在に目を向けさせ、あきらかに「俺たちをほっておくな。見捨てないでくれよ。」といったメッセージのように感じることもさへあります。

時には、「ほっとけ、向こうに行け。」と悪態をついたり、強がったりすることもあります。彼らは無視をされるのが一番辛いと言います。

めまぐるしい社会環境の変化の中で、今こそ私たち大人は、本気になってそんな子どもたちに深くかわりながら、働きかけることが必要ではなからうか。

そんなことを強く感じながら市内を巡回している今日この頃であります(後川)



・編集後記・ 青少年をとりまく状況は20年前と比べると情報化も進んでスマホが登場するなど、驚くほど変わりましたが、子どもたちが求めている人との繋がりや、自身の存在意義は、変わることがないと思えました。私たち大人が、目を配り声をかけることの大切さを痛感します。居場所を求めて、公園や大型商業施設に子どもたちがたむろする情報が時折入ってきます。その都度、関係機関で連携をとって、現地に出向いたりなどの対応をしています。気になる姿を見かけたら、ご連絡をお願いします(安福)